

立命館経済學

第十七卷 第三・四号

昭和四十三年十月

箕浦格良教授還暦祝賀論文集

内 容

箕浦格良教授還暦祝賀論文集発刊に憶う……………	武藤 守 一	1
マルクスの国家観と財政論……………	大谷 政 敬	3
産業資金と国家資金……………	小牧 聖 徳	30
A・デ・ヴィティ・デ・マルコの財政理論……………	西村 正 幸	46
—その公共財生産理論を中心として—		
近世京都商人邦波家の江戸店経営とその没落について ……………	足立 政 男	80
わが国の出生性比の上昇について……………	関 弥 三 郎	121
シュムペーターモデルの再検討(上)……………	浜崎 正 規	153
—開発理論形成のための適応論争をめぐる—		
箕浦格良教授 略歴・主要著作目録……………		215

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十七卷・第一号

論説

A・スミス D・リカードオ J・S・ミル

における祖税理論の展開 (VI)……………箕浦格良

—古典学派における財政思想 (十五) —

研究

近代経済学批判の目的と方法、そして

近代経済学の性格規定についての若

干の考察 (その一)……………小野進

—関恒義著『現代資本主義と経済理論』

の所説に関連して—

独占と恐慌……………森啓子

—自己回復力の喪失について—

資料

中国における国家資本主義 賃金制度

にかんする諸問題……………手島正毅

—往復書簡の抜粋—

自由民権期の府県会闘争 (二)……………後藤靖

—参事院法制局裁定書—

書評

岡崎栄松『資本論研究序説』……………平瀬巳之吉

立命館経済学 第十七卷・第二号

論説

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン

鉱業法 (二)……………川本和良

研究

近代経済学批判の目的と方法、そして

近代経済学の性格規定について

の若干の考察 (その二)……………小野進

—関恒義著『現代資本主義と経済理論』

の所説に関連して—

資料

調整期における国民経済と対外

貿易……………松野昭二

ヴェ・エス・ネムチーノフ 社

会的分業の静学モデル……………小野一郎

共同研究室……………

発行所 立命館大学経済学会